
適当に小説集

年齢をとっくに過ぎていたり過ぎていなかったりするぺらぺらとしゃべってぺたぺたと貼る変な人のようなみかんのようなもものようなりんご的ななにかだ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

適当に小説集

【Nコード】

N8856X

【作者名】

テスト中の小説集書いてる適当な年齢をとくに過ぎていたり過ぎていなかったりするぺらぺらとしゃべってぺたぺたと貼る変な人のようなみかんのようなものようなりんご的ななにかだと思わせてジェル状の物体その1

【あらすじ】

適当に思いついた文を書いているだけの小説集
不定期更新、数ヶ月あいたりとか普通にありません

かんちがい悪魔といじわる天使（1）（前書き）

「A○」悪魔くんのターン

「T○」天使ちゃんのターン

かんちがい悪魔といじわる天使（1）

「プロローグ」

夕暮れ時に会ったあの子

僕はきつとその時初めて人を大ッ嫌いになったんだと思う

それはきつと必然で、逃れることの出来ない運命

くしくもその大嫌いな人間を

その時の彼女を助けることになるなんて

思いもよらなかった

あの時の僕は、どうかしてたんだ・・・

「A 1」

僕は悪魔、地獄じゃなくて天国から来たんだ

名前？そんなものはないよ

あの時の彼女に復讐をするためにわざわざやってきた

パパに相談したら、笑って流されたんだ

だから頑張って力をつけてパパを驚かせるくらいにはなったよ

師匠に地獄に突き落とされた時はどうなるかと思ったけど

意外とみんな弱かった

「T1」

あの子、元気にしてるかな

ちよつとやりすぎたかな、と反省はしてるけど

仕方ないよね、可愛かったし

わたし？わたしは天使

ちっちゃい頃公園で悪魔の子を拾ったの

お父様に頼み込んで彼を天界に住ませたのよ

おろおろとろたえる姿はとっても可愛かった

あの子のお父さんとうちのお父様は昔からの親友なんだって

わたしはいま、高校生活をおくっているの

高校を卒業したら彼で遊ばないと♪

彼がこっちに遊びに来てくれるのも面白いかも

かんちがい悪魔といじわる天使(2) (前書き)

「A○」悪魔くんのターン

「T○」天使ちゃんのターン

かんちがい悪魔といじわる天使（2）

「T2」

見つけた

青い翼に緑色の瞳、髪は腰まで流した黒い髪

黒々しい魂ではなく、純白の魂

なんでこんな子が悪魔なんだろう

やっぱり彼の父親が魔王だからなのかな？

数百年前までは彼を殺さなくてはいけなかったのよね

現天王（天使天界の王）と現魔王（悪魔魔界の王）が同盟を結ぶまでは

お父様 彼のお父さん天王と魔王は数年に及ぶ殴り合いの末に友情が芽生えたみたい

いまでは天界も魔界も地上界を通じて行き来できるようになったわ

いつかお父様の後を継いで、彼ともっと仲良くなりたいわ

「A2」

パパには感謝してるよ

天界と同盟を結んだおかげで地獄にいけるようになったし、師匠

と会えたんだから

この世界は『地獄』>（欲望の壁）>天界>（生の壁）>地上界>（死の壁）>魔界>（奉仕の壁）>天獄』で成り立っているんだ

悪魔の癖に奉仕がしたいやつは天獄へ、天使の癖に欲望におぼれたやつは地獄へ

それぞれから生還すればより大きな力を入れることが出来る

悪魔は地獄の攻略が簡単で、天使は天獄の攻略が簡単だって

説明される前に師匠に突き落とされた、逆に地獄に突き落としてやろうか

師匠はパパと仲がいいんだ、喧嘩仲間だって言ってた

師匠には娘が居るらしくて、地上に居る天使^娘をつれて帰って欲しいって頼まれた

ついでにあの人間を今度こそ！ぶっ飛ばしてやる

地上界についた僕はどこかの建物の庭で握りこぶしを作った

周りが砂で一面覆われていて、きちんと整地のある場所

後で知ったんだけど、そこはグラウンドって呼ばれているらしい

かんちがい悪魔といじわる天使(3) (前書き)

「A○」悪魔くんのターン

「T○」天使ちゃんのターン

かんちがい悪魔といじわる天使(3)

「A3」

僕は地上に着いたときこのにごった空気を心地いいと感じていた
欲望にまみれたこの世界、その中にごくわずかに混ざっている清
らかな魂

天界より魔界より地獄より天獄より

地上界がもつとも僕のいる世界だと思えたんだ

僕は感動のあまり涙を流してしまった

ふと視線を感じると、そこには天使がいた

もちろん彼女は人間で、だけど混沌の中に清らかな心^魂が混じって
いた

この世界^{地上界}を表現したような人間

僕は唐突に奇視感を覚えた

まるで、前にもこんなことが・・・

「大丈夫？つらそうよ」

そんな鈴が鳴ったような声に僕の心は驚掴みにされたんだ

大ッ嫌いな人間に、愛憎をこめた笑顔で答える

「大丈夫、平気だよ・・・」と

「T3」

私は彼を見つけるなりいてもたってもいられず具合が悪い振りをして抜け出してきた

彼は私を振り返ると一瞬だけ顔がこわばった

涙を流しながら私を見る目は昔のあの頃のまま

まるでいまの私を見て昔の私を思い出そうとしているみたいで

だからもう一度言ったの、「大丈夫？つらそうよ」って

彼は変わったわ

あの時は無邪気な笑顔で「大丈夫だよ！」って

だけどいまの瞳には怒りが隠れていて

それでも私に笑いかけてくれて

「大丈夫、平気だよ・・・」

私はそんな彼をととてもいとおしく思ったの

同時に決心したわ、あらゆる障害から絶対に彼を守ってあげるっ
て

重要 告知

いつもごらん下さっている皆様、ありがとうございます。

このたび私『テスト中の小説集書いてる適当な年齢をとくに過ぎていたり過ぎていなかったりするぺらぺらとしゃべってぺたぺたと貼る変な人のようなみかんのようなものようなりんご的ななにかだと思わせてジェル状の物体その1』

略称『ジェル状の物体その1』はユーザー名『東波 広』に戻し、連載を続けたいと思っています。

正直ネタに走っただけのこの『ジェル状の（ry』という名前ですが、いちいち入力するのが疲れました。いえ、コピペですが。

まとめて整理しないと訳が分からなくなってきましたので、連載中の小説全てを【作者：東波 広】へと移行したいと思っています。

移行日は12月1日以降を予定しています。ではこの先も楽しんでいただけると幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8856x/>

適当に小説集

2011年11月21日09時44分発行